

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.10.25 No. 88 連絡先 FAX 042-555-1911



10月17日(日)も元気に 第19回 横田基地の撤去を求める座り込み！



17日の座り込みには、東京原水協代表理事の都丸哲也さんが参加。東京の非核平和闘争に反基地闘争を位置づけ、取り組みをしていきたいと報告してくれました。

昭島市からは初めて参加した方も含め数人の参加がありました。横浜からも「横田基地の撤去を求める西多摩の会」のホームページを見て初めて参加してくれました。

そして、なんと、ホームページを見て横田基地のこと、「てっきよの会」のこと聞かせてほしいと、大学生9人が、この間、訪れてくれました。きっかけは普天間基地のことがたびたび話題になっていたの、自分たちの近くの横田基地はどうなっているのだろうか、と関心を持ったからということでした。嬉しいですね。

沖縄知事選 イハ（伊波）さん勝利で 軍事基地のない平和な沖縄を！



11月11日告示、28日投票で行われる沖縄知事選挙には、宜野湾市長だった伊波（イハ）洋一氏（10月18日、市長辞任）が立候補を予定しています。普天間基地の早期閉鎖、辺野古に新基地はつくらせない、と明確に主張するイハさんに知事になってもらいたいですね。17日の座り込みでは、激励の寄せ書きをし、カンパの訴えもありました。（上2点の写真：渡邊幸一氏提供）

子どももびっくり！低空でつぎつぎ飛行するヘリコプターや戦闘機 陸上自衛隊朝霞駐屯地（東京・練馬区、埼玉・朝霞、新座、和光市）で観閲式



10月24日、陸上自衛隊朝霞駐屯地で自衛隊観閲式が行われました。観閲式には自衛隊のヘリコプターや戦闘機に加え、「安保改定50周年」の関連行事として三沢基地のF16などの米軍機も初参加しました。13日からは観閲式の予行飛行が広い範囲で行われ騒音の苦情が区役所などによせられていたそうです。

平和・民主団体は、練馬区と朝霞市でそれぞれ基地・自衛隊強化、日米軍事一体化に反対し抗議集会を行いました。

練馬区立大泉公園の集会には、地元練馬区職労はじめ労働組合、政党関係（日本共産党、社民党、市民の声ねりま、新社会党）、首都圏の平和・民主団体（東京平和委員会、憲法を生かす会東京連絡会、沖縄一坪地主会、9条の会、立川自衛隊監視テント村や、千葉・習志野、神奈川・座間、相模原などの方）が参加しました。集会後は「観閲式はやめろ！、観閲式への米軍参加反対！、日米軍事一体化を許さない！」などシュプレヒコールをしながらデモ行進しました。（左2点と裏面上の写真提供：坂本茂氏）



これは横田基地

(No. 88 の裏面)



デモ行進を双眼鏡とトランシーバーで監視？

10月9日、「横田基地もいらない！市民交流集会」が福生市民会館で開催され、集会後、横田基地を右手に見ながら国道16号を通り福生駅近くまでデモ行進しました。この写真は米軍の9階建て高層住宅屋上から、双眼鏡とトランシーバーでデモ行進を監視(?)する人の姿です。



C-130からパラシュート降下訓練

10月15日、横田基地での光景です。沖縄県名護市ではヘリコプターからつり下げられたロープに兵士5人がぶら下がり住宅や学校の上空を何回も旋回する訓練が行われました(No.72参照)が、横田基地でも、パラシュートで降下訓練が行われているのです。荷物を下ろす訓練も行われていたそうです。(写真:横田基地HPブログ)

今年4月、C-130が底部の荷物搬入口を開けたまま飛行している姿が目撃されました。これは荷物が大き過ぎたのでも閉め忘れたのでもなく、荷物投下訓練をするためだったらしいのです。

最近、横田基地にはF/A-18戦闘機などの飛来も多くなっています。横田基地が軍事基地であることを強く感じさせられます。



核を求めた日本・秘密外交を追跡極秘報告書 10月3日 NHK放映 話題に

核兵器問題に長くかかわった外務省事務次官の村田良平氏と当時西ドイツの外交官エゴン・バール氏の話をもじえ、今日に至る日本政府の核政策が50分にわたり放映されました。

村田氏(88歳)の話

日本政府は1964年中国が核保有国になったことに衝撃を受けて日本も核保有を検討した。核不拡散条約(NPT)で米国などは日本に核を持たせない。日本はNPT参加を先送りにして核保有を探った。西ドイツと秘密協議でなんとか核兵器を持つきっかけをつかみかけた。西ドイツのエゴン・バール政策企画部長らと会談を行った。両国政府代表は3名ずつだった。

エゴン・バール氏(82歳)との接触の経過と同氏との話

このインタビューの1ヶ月後に村田氏は癌で亡くなりました。NHKはエゴン・バール氏のインタビューを求めていました。はじめは「音声」だけとしていましたが、村田氏の死を知らせ、エゴン・バール氏への「あいさつのテープ」を知らせると、映像を含むインタビューに応じてくれました。

40年前に日本外務省から極秘協議の申し入れがあった。会議の報告は当時ブランド外相に報告書を提出した。日本は超大国をめざして核保有を考えた。1969年2月、箱根で極秘会談を行った。両者の外務省幹部で長期計画立案者3名ずつであった。両国はアメリカから自立すべきだと日本は提案した。西ドイツは当時冷戦下の自分たちでは決定できない。米国の核兵器が配備されている西ドイツは慎重であった。日本は10-15年で核兵器を持つことを予定していた。非常事態として核兵器を持つ事態は①中国の核保有を米国が認める事態、②インドが核保有する事態である。(次号に続く)